

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東部調理場新調理棟	階数	地上2階
建設地	愛知県春日井市庄名町字相ノ田348-1 他3筆	構造	S造
用途地域	指定なし(市街化調整区域)、法22条区域	平均居住人員	65人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年1月 予定	評価の実施日	2021年9月30日
敷地面積	15,422 m ²	作成者	前田 将嗣
建築面積	2,543 m ²	確認日	2021年9月30日
延床面積	3,047 m ²	確認者	渡邊 園子



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値: 138 (kg-CO₂/年・m²)
 ②建築物の取組み: 46 (kg-CO₂/年・m²)
 ③上記+②以外の: 92 (kg-CO₂/年・m²)
 ④上記+: 46 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>20.4 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	20.4 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	20.4 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
Q 建築物の環境品質													3.0
Q1 室内環境													3.2
1 音環境													2.6
1.1 室内騒音レベル		0.1	2.6	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	3.0	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音		-	1.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境													3.1
2.1 室温制御		0.3	3.1	0.35	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 室温		0.5	3.3	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	
ゾーン別に冷房・暖房の選択が可能な空調システム													
3 光・視環境													3.2
3.1 昼光利用		0.2	3.2	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光率		0.3	4.2	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口		3.0	5.0	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御		5.0	3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	2.0	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	
昼光率8.2%													
4 空気質環境													3.7
4.1 発生源対策		0.2	3.7	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質		0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		0.2	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
F☆☆☆☆建材を使用													
禁煙とする													
Q2 サービス性能													3.5
1 機能性													3.2
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		0.4	2.3	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	1.0	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	3.0	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		0.3	3.3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観(天井高)		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	4.0	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理		0.3	4.5	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	4.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
禁煙であり、1%以上のリフレッシュスペースを設けている													
維持管理に配慮した内装・外装・外構を計画													
維持管理用機能の確保に取り組む													
2 耐用性・信頼性													3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.5	0.31	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.8	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	4.0	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.1	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	2.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	4.0	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性		0.1	3.6	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	5.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
建築基準法に定められた25%増の耐震性													
空調換気ダクトの長寿命化を図っている													
主要な用途上位3種の2種以上にC以上を使用													
重要度に合わせた系統分けの実施、熱源の2重化													
系統分けの実施、受水槽に蛇口の設置													
耐震クラスA													

3 対応性・更新性			0.2	3.9	0.29	-	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		4.5	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.8	4.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.1	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	4.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.38	-	-	-	2.5
1	生物環境の保全と創出	独自③		2.0	0.30	-	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		3.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.63	3.0	5.0	0.22	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		ナイトパーズ	3.0	4.0	0.12	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.76	3.0	3.4	0.45	-	-	3.4
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1	節水		3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.21	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	エコマーク・タイル(玄關ポーチ)、高速シートシャッター(調理室等)グリーン調達品・再生加熱アスファルト混合物(外構)	3.0	5.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	OAフロア	3.0	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率84%		3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	適切な駐輪場・駐車場スペースの確保		5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		ゴミ処理の空間整備、減量化		4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		3.0	0.33	-	-	-	
2	振動	独自		3.0	0.33	-	-	-	
3	悪臭			3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.3	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			4.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.5	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11	外構緑化:20.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 ゆとりのある敷地の中央に建物を配置することで近隣住宅地への配慮をす るとともに明るく周辺に開かれた環境の創造を目指した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 昼光率は8.2%と高い数値とした。 また建築材料はほぼ全面的にF☆☆☆☆製品とした。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高、天井高ともに余裕のある計画とし、男女別に休憩室を設けた。 耐震性においては基準法に定められた25%増の耐震性を有する計画とし た。 空調・給排水用の配管には耐用年数の長い材料を採用した他、メンテナン ス性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してくださ い。 建物を2階建てと低く抑え、敷地中央に配置する事で近隣住民の日照等に 配慮したほか、敷地内で緑化率20%以上を確保した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 太陽光発電設備を設置し、自然エネルギーを利用することで環境に配慮し た。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してくださ い。 節水に関しては、節水型便器を採用した。 リサイクル材料の使用については、再生加熱アスファルト混合物、再生骨 材の路盤材を利用した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 適切な駐車舞台数の確保、荷さばき場スペースを確保した。 雨水排水流出抑制を行い、周辺地域のインフラへの負荷低減を行っている。 る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサ イクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで 評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。